

令和 7 年度

大阪府立水都国際中学校及び大阪府立水都国際高等学校

指定管理法人業務 事業報告書

1 特定公立国際教育学校等の概要

名称	大阪府立水都国際中学校 大阪府立水都国際高等学校
所在地	大阪市住之江区南港中3丁目7番13号
設置形態	学校教育法第71条に規定する併設型中高一貫校
設置学級数	中学校 3年 6学級（237名） 高等学校 3年14学級（456名）

2 指定公立国際教育学校等管理法人（指定管理法人）の概要

法人名	学校法人大阪YMCA
主たる事務所の位置	大阪市西区土佐堀1丁目5番6号
代表者	理事長 末岡 祥弘
担当役員	理 事 山根 一毅
担当者	次 長 林 健太郎
連絡先	06-7662-9600
指定期間	令和4年4月1日～令和11年3月31日
報告対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

3 指定管理法人業務の実施状況

（1）管理運営上の目標 中高共通

＜教育目標＞ 「社会に貢献する共創力をみがく」

主体性…強い意志と使命感を持って、自ら考え判断し、行動する資質・能力。

寛容性…多様な価値観やその背景を心広く、受け入れる資質・能力。

探究心…よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力。

＜課題＞

- ① ネットいじめ・依存の危険性
- ② 成人年齢引き下げによる主権者教育の充実
- ③ 様々に展開される万博での教育機会の活用
- ④ 個の特性に応じた支援の充実
- ⑤ IBの手法を用いた教育手法の拠点校としての役割

<重点目標>

- ① 生徒指導・進路指導・教科と連携し、メディアリテラシー教育の推進を行う。
- ② 生徒指導・進路指導・教科と連携し、金融教育の推進を行う。
- ③ 探究活動充実のため万博との連携を活性化させる。
- ④ SC・SSWの体制を強化し教員のカウンセリングマインドの育成に取り組む。
- ⑤ 探究教育に関する特別活動、研修会および公開授業を実施し、IBや探究の教育手法を実践する拠点校としての役割を担う。

(2) 具体的な取組とその結果

1. 中高共通

- ① 生徒指導・進路指導・教科と連携し、メディアリテラシー教育の推進を行う。

生徒指導・進路指導・教科と連携したメディアリテラシー教育の推進を重点目標とし、安全対策の強化と併せて多様な取組を実施した。

教職員に対する安全教育として、年度当初に住之江消防署南港出張所より講師を招き、救命講習会を実施した。講習では、心肺蘇生法やAEDの使用方法等の応急手当に関する知識・技術の習得を図った。

安全対策面では、新築棟における防災対策として、住之江消防署と連携した避難訓練を2回実施し、生徒への避難方法の周知を行った。また、住之江警察署と連携した不審者対応に関する教職員研修を実施し、教職員の危機管理意識の向上を図った。さらに、これらの取組について保護者へ情報発信を行うことで、学校と家庭との連携強化に努めた。

生徒に対するメディアリテラシー教育としては、大阪市消費者センターの講師による「消費者教育講座」を実施した。成年年齢引下げ後に増加が懸念される消費者トラブル（SNS、オンラインゲーム課金、定期購入等）への対処方法について学ぶ機会を設け、生徒が「自立した消費者」として必要な知識及び実践力を身に付けることができた。

- ② 生徒指導・進路指導・教科と連携し、金融教育の推進を行う。

大阪府政策企画部のプログラムを活用し、三井住友銀行の職員による講座を高校2年生全員を対象に実施した。また、中学1年生から高校2年生までを対象として、金融、生涯設計、企業活動等、多岐にわたる内容について計5回の講座を実施した。

様々な金融教育関連講座を実施・検証することで、内容及び生徒のニーズを踏まえ、本校の実態に即した3年間及び6年間を見通した金融教育プログラムの構築を進めている。

- ③ 探究活動充実のため万博との連携を活性化させる。

万博において、中学校全体での校外学習を実施するとともに、19件の発表等に参画し、探究活動のさらなる充実を図った。

万博開催期間中に大阪で開催された、世界のYMCAのCEOが集う国際会議に教員及び生徒が参加し、世界的課題について議論するとともに、その内容をまとめて発表する活動を行い、参加者から高い評価を得た。

万博における生徒発表を通じて関係を構築したイタリアの教育行政機関から、本校の教育活動に対して高い評価及び関心が寄せられた。その結果、万博終了後の10月には、本校生徒計18名が、校長及び教員とともに、イタリアで開催された国際的な教育イベントに日本代表として2回招待され、渡航費及び滞在費等の負担なく参加する機会を得た。これらの経験は、生徒及び学校双方にとって非常に大きな学びの機会となった。その後、現地で協働したイタリアの高等学校から本校との相互訪問・交流について提案があり、協議を重ねた結果、姉妹校協定を締結した。令和8年度から交流事業を実施予定である。

④ SC・SSWの体制を強化し教員のカウンセリングマインドの育成に取り組む。

生徒一人ひとりの特性に応じた支援体制を強化するため、大阪YMCAの専門部署から派遣されるスクールカウンセラーについて、フルタイム体制へ拡充した。スクールソーシャルワーカーの派遣を継続し、生徒への支援を適切に実施した。

教職員のカウンセリングマインドの育成及び専門職と教職員の連携を強化することを目的として、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーによる教職員研修を実施した。

⑤ 探究教育に関する特別活動、研修会および公開授業を実施し、IBや探究の教育手法を実践する拠点校としての役割を担う。

府立学校への普及に向けた取組として、府立学校教員団による視察を受け入れ、本校の教育実践を共有した（府内から約180名の教員が来校）。

本校を会場として、関西におけるIB教育の普及及び教育振興を目的としたセミナー（主催：文部科学省、後援：大阪府教育委員会）を開催した。府立学校を含む全国の関係者が来校し、本校の事例発表及び意見交換を行う貴重な機会となった（全国から約120名の関係者が来校）。

毎年2月に実施しているアカデミックフェアについて、全府立学校に向けて案内を行い、本校の教育実践を広く公開した（全国から約100名の関係者が来校）。

大阪府の研修プログラムに基づき、府立学校教員1名を1年間の実地研修生として受け入れた。また、府立学校教員を対象とした公開授業を2回実施した。

2. 高等学校

① 学力向上

高校1年次の数学において、英語習熟度及び理解度に応じた習熟度別クラスを編成した。その結果、高校1年数学における外部評価基準（GTZ）のC・Dゾーンの生徒割合を15%以下とする目標に対し、6%という結果となり、昨年度に引き続き大きく目標を達成した。また、英語検定に向けた補習を継続的に実施することで、高校1年生の英語力向上を図った。

高校1年次においては、内進生と新入生を分けたクラス編成とすることで、それぞれの状況に応じた支援を効果的に行う体制を継続した。新入生に対しては、入学後に本校の特徴であるICT活用及び探究型授業のために必要なスキルに関する講座を実施した。

外国人教員によるイマージョン授業においては、日本人教員及びESL教員による継続的なサポートを行い、生徒の学習定着及び理解促進に努めた。

② IB 教育を推進する

生徒の IB 教育に関する基礎的理解を深めるため、高校 1 年生全員を対象に説明会を実施した。また、高校 2 年次からの IB コース履修におけるミスマッチを防止するため、IB コースを希望する高校 1 年生の生徒及び保護者を対象とした説明会を実施するとともに、IB 学習に関する生徒向け研修会を 2 学期から学年末にかけて継続的に実施した。その結果、事前準備及び情報提供に関する生徒アンケートでは、97%の肯定的回答を得ることができた。これらの取組の結果、令和 8 年度の高校 2 年生の IB コース選択者数は過去最多となる 26 名となった。

令和 7 年度 IB コース卒業生 19 名の成果として、ディプロマ取得率 100%を達成することができた（世界平均 73.8%）。本校生徒の平均スコアは開校以来最高の 34.3 点（45 点満点）であり、世界平均 29.3 点を大きく上回る成果を残すことができた。

③ 個性を見つけ、そのスキルを伸ばす

探究活動及び TOK（知の理論）を通して、生徒一人ひとりが自身の興味・関心の方向性を理解できるよう支援するとともに、成果発表の機会を 2 回設定した。また、IB 認定校として、学校全体で、校内にとどまらず広く校外のコンテスト等に関する情報を周知し、積極的な参加を促進する体制及び機運の醸成を図った。その結果、68%の生徒が何らかの校外コンテスト等に参加し、多くの受賞者を輩出した。

探究活動における学会発表やコンテスト実績等を活用し、総合型選抜、学校推薦型選抜及び海外進学等につなげた生徒が進学者全体の 59%を占め、探究活動を多くの生徒の進路実現につなげることができた。

大阪・関西万博については、生徒のさらなる学びと成長の好機と捉え、積極的な参画を推進した。大阪府立学校万博学園祭におけるステージ発表、通訳及び体力測定ボランティア、防災をテーマとしたイベントにおける防災部の取組発表、ワークショップ発表等を実施した。校外学習としての訪問とは別に、延べ 18 件のイベント・活動に 88 名の生徒が参画した。

3. 中学校

① 学力向上

外部教育機関の講師を招へいし、中学 3 年生の生徒及び保護者を対象とした進路説明会を開催することで、大学進学を見据えた進路指導を実施した。

スタディサプリの AI 機能を活用した自主学習促進の取組を実施し、生徒一人ひとりの効率的な予習・復習及び学習意欲の向上につなげることができた。

各学年において保護者向け学年通信を年間 6 回発行し、生徒の発達段階に応じた教育活動や取組について積極的な情報発信を行った。

② IB 教育の推進

TOK（知の理論）につながる批判的・論理的思考力の育成を目的として、週 2 時間設定している CL（クリエイティブラーニング）の授業において、生徒が仲間と協働しながらプロトタイピングツールを活用し、成果物の制作に取り組んだ。

教育関係者、活動に関連する企業・団体及び保護者を対象とした公開イベント「アカデミックフェア」において、各学年の代表チームが成果発表を行った。

③ 個性を見つけ、そのスキルを伸ばす

希望する生徒を対象として、オーストラリアホームステイ研修及びセブ語学研修等を実施し、中学生という早い段階から、実践的な英語によるコミュニケーション能力の向上及び多文化理解の深化を図った。また、校内行事として「Global Day」を実施し、外国人教員が出身国の文化について、ダンスや講義等の多様なアクティビティを通して紹介した。その中で、生徒が英語を積極的に活用し、コミュニケーション能力を磨く集中的な機会を設けることができた。

これらの取組の結果、CEFR B1 レベルに到達した生徒の割合は、中学3年生における当初の目標40%を達成し、49%であった。

外部コンテストへの出場機会については、全生徒参加による100%を達成するとともに、各種コンテストにおいて上位入賞等の成果を上げることができた。

(3) 教育課程

1. 中学校教育課程について

別紙1-1 中学校教育課程実施計画に基づいて実施した。

2. 高等学校教育課程について

別紙1-2～4 高等学校教育課程実施計画に基づいて実施した。

3. 英語を用いた授業の実施状況

① 中学校

英語、数学、理科及びグローバルスタディーズの授業において、英語を用いた授業を実施した。また、副担任として外国人教員を配置し、ホームルーム活動の一部についても英語を用いて実施した。

② 高等学校

英語、数学、理科及びグローバルイシューの授業において、英語を用いた授業を実施した。また、副担任として外国人教員を配置し、ホームルーム活動の一部についても英語を用いて実施した。IBコース生については、担任として外国人教員を配置するとともに、英語、数学及び化学の授業を英語で実施した。

(4) 年間行事

別紙2 年間行事計画に基づいて実施した。

(5) 入学者選抜の実施状況

<中学校>

日 程：令和8年1月24日

志願者数：261名

合格者数：70名

<高等学校>

日 程：令和8年2月19日、20日

志願者数：114名（特別選抜 107名、帰国生選抜 7名）

合格者数：82名（特別選抜 75名、帰国生選抜 7名）

(6) 卒業者の状況

別紙3 進路・合格実績（令和8年5月20日現在）

(7) 高3生（5期生）のIBスコア結果

1 フルディプロマ取得について

・フルディプロマ取得率：100%

2 科目サーティフィケート（IBコース生以外）について

・該当生徒なし

(8) 英語力の状況（令和8年3月31日時点）

中学校

	CEFR A1	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2	CEFR C1
中学1年	4名	69名	5名	0名	0名
中学2年	2名	50名	26名	0名	0名
中学3年	2名	27名	43名	5名	1名

高等学校

	CEFR A1	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2	CEFR C1
高校1年	1名	60名	81名	12名	3名
高校2年	3名	44名	77名	17名	2名
高校3年	2名	41名	66名	27名	7名

(9) その他処分の状況

処分等		中学校	高等学校
懲 戒	退学	0名	0名
	停学	0名	2名
	訓告	1名	0名
転入学、編入学		0名	0名
転出、退学		3名	9名
休学、留学		0名	8名

(10) 民間知見を活用した教育活動の状況

IB コア科目である CAS 活動において、専門的知識及び豊富な経験を有するボランティア「YMCA アンバサダー」を活用した教育活動を実施した。

大阪 YMCA インターナショナルスクールとの連携を通じて、IB 教育の推進に関する研究を行った。

柔軟な人事採用を継続し、教員が教育活動に専念できるよう事務職員を配置し、学校運営体制の充実を図った。

YMCA のグローバルネットワークを活用し、姉妹校候補としてアメリカ・サンディエゴの High Tech High を視察し、連携について協議を行い、現在も協議を継続している。加えて、ザンビア YMCA との連携及び本校独自のネットワークを活用し、ザンビアの学校との姉妹校締結を完了した。また、次年度に向けた海外研修旅行の企画に向け、現地教育機関及び国際団体の視察を実施した。

(11) 教育上特別の配慮を必要とする生徒への支援等の状況

大阪 YMCA の専門部署からのスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの派遣を受け、生徒への支援強化を継続した。特別支援委員会を定期的に開催し、教育上特別な配慮を必要とする生徒の学校生活の状況把握及び支援方策の検討を行い、適切な支援を実行した。また、生徒理解に努めるとともに、保護者の思いに寄り添いながら、個別の支援計画を作成し、必要な支援を実施した。

スクールカウンセラーについては、支援体制の充実を図るためフルタイム体制へ拡充した。

(12) 管理施設の補修・修繕、更新等の状況

- ① 新規購入家具の防災対策の為に固定等実施
- ② Softbank 社携帯基地局の 5G アンテナ増設計画におけるアンテナ設置工事（大阪府担当課了承済）
- ③ 職員室内配置換えに係る内線再設定工事
- ④ 中学全教室 1 階部分中庭側網戸設置（換気時の虫対策の為）
- ⑤ 法定点検指定箇所に係る防火シャッター、防火扉不具合調整
- ⑥ 既存棟 4 階雨漏り箇所修繕（大阪府庁施設財務課実施工事）

- ⑦ 東グラント・クラブ棟男子更衣室壁及び既存棟 3 階男子トイレ壁ひび簡易パネル貼付補修
- ⑧ 体育館まわり木製デッキ周りにおけるねじの緩み修繕
- ⑨ 技術室粉塵機購入設置
- ⑩ 既存棟消化栓ホース 36 本及び消火器 22 本入替

4 職員の配置状況

(1) 教職員の配置状況（令和7年5月1日時点）

職名	中学校		高等学校	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
校長	1 * 中高共通	0	0	0
副校長	0	0	2	0
教頭	1	0	0	0
主幹教諭	0	0	0	0
指導教諭	0	0	0	0
教諭	1 3	0	4 3	5 * 中高共通
養護教諭	1 * 中高共通	0	0	1
栄養教諭	0	0	0	0
実習助手	0	0	8	0
事務職員	1	0	2 4	2
学校用務員	1	0	1	0
計	1 8	0	7 8	8

(2) 外国人の教諭等の配置状況（令和7年5月1日時点）

職名	教員免許状	担当教科	担当校種	雇用形態
英語教諭（2名）	特別免許	英語	高等学校	常勤
数学教諭（4名）	特別免許	数学	高等学校	常勤
理科教諭（4名）	特別免許	理科	高等学校	常勤
指導助手 （8名）	なし	英語・数学	高等学校	常勤
ICT 職員（1名）	なし	ICT	事務職員	常勤

5 管理代行料に係る収支の状況

(1) 収入

項目	金額
管理代行料	821,851,000 円

(2) 支出

項目	金額
人件費	592,972,818 円
消耗品費	14,830,563 円
備品購入費	8,055,200 円
光熱水費	21,978,060 円
管理委託費	33,579,391 円
渉外費	39,531 円
通信費	4,665,793 円
賃借料	20,872,976 円
保険料	2,714,565 円
租税公課	58,216,920 円
広報費	1,605,777 円
旅費交通費	14,440,554 円
会議費	370,752 円
報酬・委託・手数料	27,205,005 円
諸会費	3,599,648 円
修繕費	2,510,849 円
福利厚生費	11,702,381 円
研修費	2,299,709 円
雑費	190,508 円
計	821,851,000 円

6 その他取組の状況

(1) 個人情報保護の取組

個人情報保護に必要な体制を整備するとともに、適切な管理及び運用を行っている。

(2) 情報公開の取組

学校ホームページを活用し、積極的かつ適切な情報公開を行っている。

(3) 教職員研修の状況等人材育成の取組

- ・教職員研修会及びOJT等を活用し、校内における人材育成を実施した。
- ・大阪府教育委員会主催の各種研修及び大阪YMCA主催の研修に参加し、教職員の資質向上を図った。
- ・IBワークショップに参加し、IB教育に関する専門的知識及び指導力の向上に努めた。
- ・全教員を対象として、管理職及び教科主任による授業観察と個別の振り返り・指導を実施し、授業の質の改善につなげた。
- ・全常勤教員を対象として、自己研鑽計画の提出を求めるとともに、PD費（研修必要経費）の支給を実施し、主体的な研修参加を支援した。

(4) 入学希望者数増加に向けた取組

中学入学対象

- ・学内でのオープンスクール1回、学校説明会3回
- ・学習塾主催のイベントでの学校説明2回

高校入学対象

- ・学内でのオープンスクール1回、学校説明会4回
- ・卒業生・在籍生の出身中学校と本校への進学実績がない大阪市・堺市の公立中学校訪問145校
- ・大阪府教育委員会主催の「大阪府公立高校進学フェア」をはじめとする学習塾・出版社等主催のイベントでの学校説明・個別相談等16回

帰国生選抜対象

- ・国際教育フェア等（海外での実施も含む）での学校説明と個別相談6回

その他

- ・中学校出前授業11校、学校教員対象説明会3回

(5) 大阪府の学校教育全体の拠点校としての取組

- ・府立学校教員による視察を受け入れ、本校の教育実践を共有した（府内から約180名の教員が来校）。
- ・大阪府の研修プログラムに基づき、府立学校教員1名を1年間の実地研修生として受け入れた。また、府立学校教員を対象とした公開授業を2回実施した。
- ・関西におけるIB教育の普及及び教育振興を目的としたセミナー（主催：文部科学省、後援：大阪府教育委員会）において、本校が会場校を務めるとともに、本校のIB教育に関する取組について発信を行った。
- ・年間55件（1学期17件、2学期29件、3学期9件）、延べ398名の学校視察受入れを実施した。

- ・学校ホームページ等を活用し、本校の教育活動に関する積極的な情報公開及び情報発信を行うとともに、ニュース、テレビ、新聞及び雑誌等、多数のメディアに取り上げられた。

(6) IB に関する取組

- ・中学校においては、「数学」「理科」「国際理解（学校選択教科）」等、高等学校においては、「数学」「理科」「グローバル探究（学校設定教科）」等の教科において、英語による指導（イマージョン教育）を実施した。
- ・IB 受講生の取組紹介として、IB 科目に関する校内成果発表や、中学生及び高校 1 年生を対象としたワークショップ等を実施した。これらの取組を通じて、学校内における IB 文化の継続的な醸成を図ることができた。
- ・CAS 活動については、青少年育成及び奉仕活動に関して豊富な経験を有する Y アンバサダー（YMCA の OB・OG）との連携に基づき、生徒の CAS 活動を深化させる取組を実施した。具体的には、国際的な教育支援分野で活躍する Y アンバサダーによる「地域と世界をつなぐリーダーシップ」と題した講演を生徒向けに実施した。これらの活動を通じて、生徒による様々なプロジェクトの改善・発展につながるとともに、学校外のコミュニティが本校の IB 教育等について理解を深める機会とすることができた。

(7) 地域との連携、活性化に寄与する取組

- ・地域の町会、自治会等の定例会に管理職が毎月出席し、地域との連携強化を図った。
- ・プロジェクト型学習の活動として、地域の町内会と連携し、地域の子ども及び住民を対象とした祭りを校内及び地域公園等において実施した。
- ・プロジェクト型学習の一環として、咲洲みなみ小中一貫校の小学生に対し、継続的に英語を教える機会を設けた。
- ・ゲートボール部が南港さざんか海のまち協議会と協働し、地域住民との交流を目的としたゲートボール練習を実施した。

(8) 大学・企業等との連携の取組

領事館・教育省関連

- ・オーストラリア総領事館主催による講演会を実施し、「オーストラリア人・オブ・ザ・イヤー」受賞者である宇宙飛行士キャサリン・ベネット氏の講演を総領事マーガレット・ボーエン氏来校のもと開催した。
- ・在大阪・神戸米国総領事館との連携により、アメリカ大学進学説明会を実施した。
- ・イタリア教育省からの招待を受け、現地イタリアで開催されたプログラムに、教員及び生徒が計 2 回参加した。

海外大学関連

- ・マレーシア
大学進路先の拡充を目的として、INTI International University、University of Wollongong、Taylor's University、Swinburne University of Technology の計 4 校と連携を行った。
※Swinburne University of Technology の入学担当者による説明会を本校において実施した。
- ・米国
大学進路先の拡充を目的として、Southern Utah University、California State University San Marcos、University of Minnesota Twin Cities の計 3 校と連携を行った。

※California State University San Marcos による保護者・生徒向け海外大学進学説明会を実施した。

※University of Minnesota Twin Cities と、令和 8 年度にオンラインによる生徒交流を予定している。

- ・カナダ

教育連携校である University of Calgary から学生インターン 2 名を受け入れ、教育実習活動の一環として、本校生徒を対象としたカナダ大学説明会を実施した。

- ・台湾

国立政治大学 の担当者が本校を訪問した。また、台湾における大学進路先拡充を目的として、主要大学 3 校を教員が視察した。

国内大学関連

- ・大阪大学 及び 甲南大学 の大学教員による模擬授業を実施した。
- ・立命館アジア太平洋大学（APU）との教育連携継続を確認するとともに、教員による現地視察を実施した。

海外中学・高校関連

- ・イタリアの Gabriele D'Annunzio 高校 と教育連携に関する姉妹校協定を締結し、令和 8 年度には現地イタリアの生徒受入れを予定している。
- ・ザンビアの Linda Secondary School と教育連携及び姉妹校協定を締結し、令和 8 年度に本校生徒の訪問を予定している。
- ・大阪観光局と連携し、メキシコの Kipling Institute との国際交流を実施した。
- ・大阪ガス国際交流財団と連携し、マレーシア・クチン市の SMK Batu Lintang Secondary School との交流会を開催した。
- ・中国・上海の Greentown Yuhua School と国際交流を実施した。

企業連携

- ・カルティエ・ジャパンによる生徒参加型プログラム「ユースプログラム」に参加した。
- ・社会福祉法人おれんじ会と連携し、オリジナルスイーツ作成プログラム等を実施した。
- ・松竹芸能株式会社及び大阪府教育委員会と連携し、英語漫才作成プログラムに参加した。
- ・大阪ガス国際交流財団と連携し、マレーシア・クチン市への本校生徒派遣及び現地生徒受入れを実施した。
- ・笹川平和財団と連携し、生徒 2 名が米国大学キャンパスツアーに参加した。

学会関連

- ・日本数学教育学会 において、生徒による研究成果発表等を実施した。
- ・日本海洋教育学会 において、生徒による研究成果発表等を実施した。

(9) その他の取組

- ・他自治体教育委員会による視察等を受け入れ、教育活動及び学校運営に関する情報共有・意見交換を実施した。